🕮 図書館だより Y ぶらりー 🕮 横浜商業高等学校 2025年度 第1号

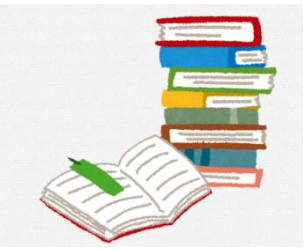
かつてはお休みの日が近づくと、さぁなにしよう、とあれこれ予定を詰め込んでいたのですが、コロナ禍に「なにもしない」ということを体験してから、なにもせずに過ごす時間も大切、と思うようになりました。
國分功一郎『暇と退屈の倫理学』（新潮文庫 B104 コ）に、そんな暇な時間のことが書かれているかと思いきや、逆に頭が混乱してしまうような読書の時間を過ごすことになりました。普段退屈だなんてとても思わないような、例えばパーティーの楽しい時間も「退屈」のひとつの形式であると述べています。答えに辿り着けない人生の深い問いに向き合う読書の時間でした。　　司　書

🕮 「学校」を考えてみよう 🕮



学校を考えてみるというテーマで本を集めてみたら、たくさんの本に出合えました。
学校、教育、部活動、制服、勉強、青春、お弁当、教え方、学校のイラスト集、学校にちなんだ小説、Y 校の周年記念誌などなどさまざまな本を揃えました。一部を紹介します。

○石井光太『ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。マララ・ユスフザイさんの国連演説から考える』（373 ユ）
○二宮皓『世界の学校　―教育制度から日常の学校風景まで―』（372 ニ）
○渡辺直樹『日本の制服 150 年　イラストで見る制服のデザイン』（589 ワ）
○パク・ソンヒョク『勉強が面白くなる瞬間　読んだらすぐ勉強したくなる究極の勉強法』（375 パ）
○坂本拓弥『体育がきらい』（新書 780 サ）
○内田良・山本宏樹『だれが校則を決めるのか　民主主義と学校』（375 ウ）
○齋藤孝『友だちってなんだろう？　ひとりになる勇気、人とつながる力』（158 サ）
○杉田明子・佐藤剛史『中高生のための「かたづけ」の本』（新書 597 ス）
○山内慶太・西川俊作『福澤諭吉教育論　独立して孤立せず』（370 フ）
○阿比留久美『子どものための居場所論　異なることが豊かさになる』（370 ア）
○外山美樹『勉強する気はなぜ起こらないのか』（新書 141 ト）
○MAEDAX『MAEDAX の学校萌え !!　背景のプロに学ぶ今どきの学校の描き方』（726 マ）
○中澤篤史・内田良『「ハッピーな部活」のつくり方』（新書 375 ナ）
○栗田正行『高校教師の授業づくり　最高の学びを生み出す仕事術』（375 ク）
○坪田信貴『学年ビリのギャルが 1 年で偏差値を 40 上げて慶應大学に現役合格した話』（376 ツ）
○山内勇樹『やりたいことが見つからなければ留学しなさい』（377 ヤ）
○ほりえさちこ『おいしさ満点！中高生の基本のお弁当』（596 ホ）
○タテノカズヒロ『コサインなんて人生に関係ないと思った人のための数学のはなし』（410 タ）
○横山明日希編『愛×数学×短歌』（911 ヨ）
○甲斐荘正晃『女子高生ちえの社長日記 PART2 M&A がやってきた!?』（336 カ）
○『Y 校百年史』（参考図書 376 ワ）
○大岳美帆『なるには BOOKS 高校調べ　商業科高校校百年史』（参考図書 376 ワ）
○川上康則『教室「安全基地」化計画』（375 カ）
○辻村深月『かがみの孤城』（913.6 ツ）
○米澤穂信『本と鍵の季節』（913.6 ヨ）
○伊与原新『宙わたる教室』（913.6 イ）
○樫辺勒『小説 写真甲子園 0.5 秒の夏』（913.6 ス）



🕮　2025本屋大賞　決定！　🕮

2025 年本屋大賞は阿部暁子『カフネ』（913.6 ア）でした。「カフネ」という名の家事代行サービスの会社が話の中心となって出てくることもあり、掃除に取り組む場面や食べ物を作る場面が何度も出てきます。窓を開けて涼やかな風を入れて部屋をきれいにすること、食べる人に合わせて食材を小さく刻んだりしながら丁寧にふだん面倒だな、と思っていることこそ、やってみたら心が洗われるような気持ちになれることってあるんだなぁと思わせてくれる本でした。
公立の図書館では予約がいっぱいでなかなか借りることができないですが、Ｙ校ではあまり待たずに貸出が可能です。どうぞご利用ください。

大賞　〇阿部暁子『カフネ』（913.6 ア）
2 位　〇早見和真『アルプス席の母』（913.6 ハ）
3 位　〇野崎まど『小説』（913.6 ノ）
4 位　〇山口未桜『禁忌の子』（913.6 ヤ）
5 位　〇青山美智子『人魚が逃げた』（913.6 ア）
6 位　〇恩田陸『Spring』（913.6 オ）
7 位　〇一穂ミチ『恋とか愛とかやさしさなら』（913.6 イ）
8 位　〇朝井リョウ『生殖記』（913.6 ア）
9 位　〇金子玲介『死んだ山田と教室』（913.6 カ）
10 位　〇宮島未奈『成瀬は信じた道をいく』（913.6 ミ）





🕮　今月のおすすめ本　🕮

〇 noritamami『超訳 古今和歌集　＃千年たっても悩んでる』ハーパーコリンズ・ジャパン（911 ノ）

1000 年以上も前に生まれた平安時代の和歌を現代語に超訳し、高校生にも共感してもらえる言葉に生まれ変わった「古今和歌集」です。百人一首でおなじみの和歌も出てきて、たしかに今風に言えばこういうことなのね、と納得して新しい解釈ができたことに新鮮な驚きを感じます。専門家からは眉をしかめられそうな訳もありますが、和歌に親しむとっかかりとしては手ごろな一冊になると思います。

古今和歌集 569　藤原興風
わびぬれば
しひて忘れむと
思へども
夢といふ物ぞ
人だのめなる

あーーーもーーーー
忘れようとしてんだから
夢に出てこないでよー

古今和歌集 691　素性法師
いま来むと
いひしばかりに
長月の
有明の月を
待ちいでつるかな

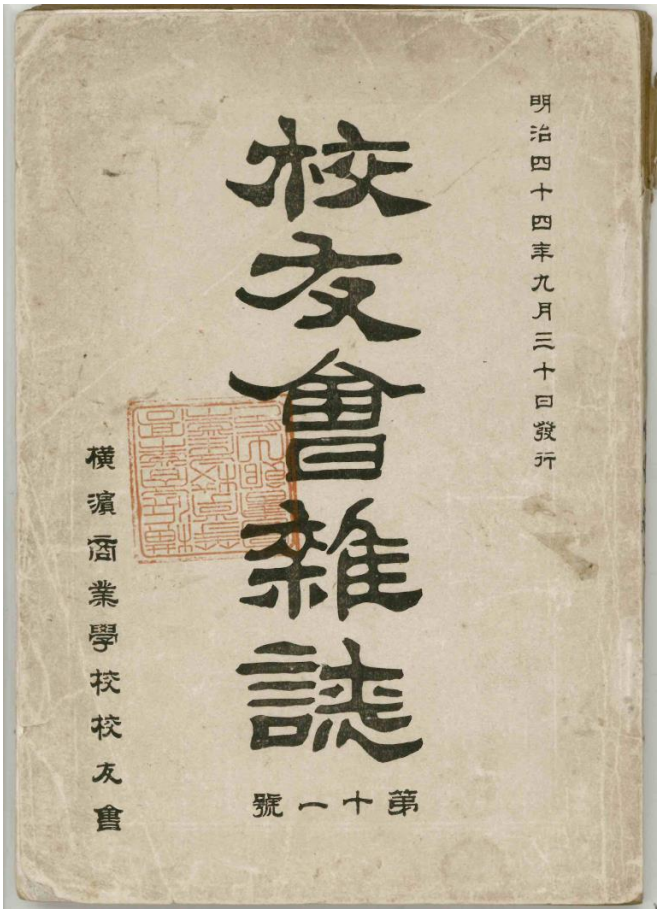
絶対来るっていうから待ってたのに
結局、ぼっちでオールじゃん
ふざけんな

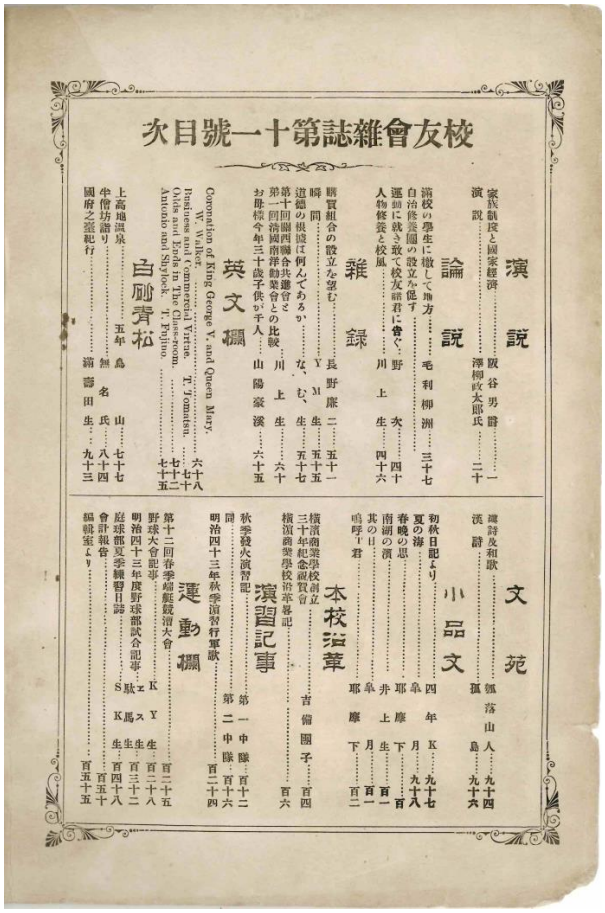
古今和歌集 193　大江千里
月見れば
ちぢに物こそ
悲しけれ
わが身ひとつの
秋にはあらねど

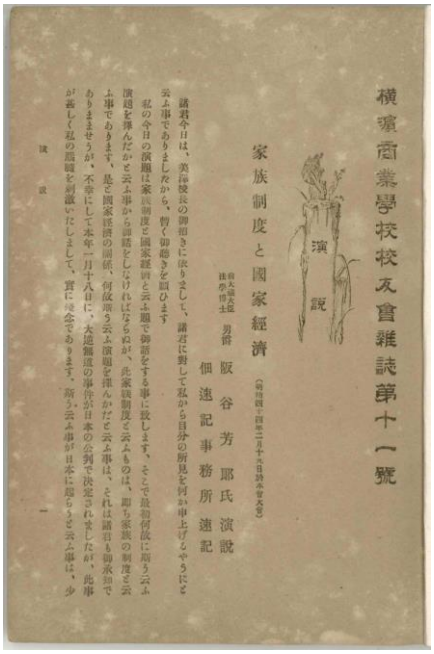
月見たら
泣けてきちゃうんだ
ボクってほんと繊細

Y校アーカイブ　vol. ３０　「校友會雑誌」

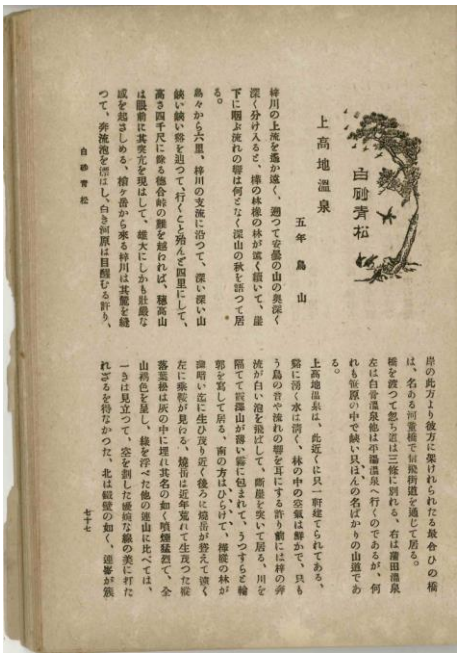
明治44年9月30日に発行された「校友會雑誌」第11號を紹介します。 いまY校で発行している「清水ヶ丘」のような冊子で、大きさもほぼ同じです。 阪谷芳郎男爵の演説録から始まり、論説、雑録、英文欄、そして生徒が寄せた気ままな文章や部活動の記録、学校の沿革、軍事練習の詳細な記録まで、充実した内容が156ページにわたって掲載されています。











男爵の阪谷芳郎氏は、大蔵大臣や国会議員、専修大学総長などを務めるなか、多くの学校に関わっていたことが知られています。 講演を速記にて記録していたことも、最近にはないことで新鮮です。